

ニッコウキスゲ：尾瀬に行ったよ！（2017/17/19）

MH&TI 記

「夏が来ると思い出すー♪」で行きたい！ キスゲが見たい！

そこで、尾瀬のキスゲ開花情報を確認しつつ、天気予報を横目に睨んで決行日を探っていた。7月中旬に入り尾瀬のビジターセンターが開花し始めたと伝えている、19日の天気予報や良し！ということで決行。

早朝4時に自宅から車（MH）を出して、皆3人を順次ピックアップし、5時前に圏央道の入間インターに入る。関越道の沼田ICを降り、戸倉（関東から最も近い尾瀬の玄関口）に向かう。そこで車を止めて、後は乗り合いタクシーで鳩待峠に進み7:30到着。快晴だった天気が山の中に入るにつれて雲の量が増えていく。若干の危惧を抱きながら、7:45歩き始める。

＜山ノ鼻ビジターセンター8:45着＞ → ＜中田代三叉路＞ → ＜ヨッピー吊り橋10:35着＞、昼食。『「ヨッピー」の語源はアイヌ語で、いくつかの沢が「寄ってくる（集まる）」ことからつけられた』と、子供たちの集団のリーダーが大きな声で説明をしている。初めて知った。＜竜宮十字路＞経由で＜中田代三叉路＞に戻り、＜山ノ鼻＞ → ＜鳩待峠15:30＞と戻った。

キスゲの数は多くなかったが、カキツバタやアヤメ、トキソウ、ワタスゲなどが咲き、緑に溢れ、池塘（ちとう）にはヒツジグサが咲き、ハッチョウトンボ（朱色の綺麗な糸トンボ）、また、ルリイトンボ（瑠璃色の綺麗な糸トンボ）も見られた。結局、晴れたり曇ったり、爽やかな最高の尾瀬行きになった。秋になったらもう一度行きたい！



鳩待峠：今から出発（7:45 AM）



シャクナゲ



ナルコユリ



マタタビの葉（花期に、葉の表が白くなる）



オオレイジンソウ（トリカブトの近縁種）



水芭蕉



至仏山



周囲の黄色い花は「ニッコウキスゲ」



ニッコウキスゲ



トキソウ(鳥のトキの羽の色に由来)



サワラン



燧ヶ岳



振り返れば至仏山



ニッコウキスゲ



ワタスゲ



燧ヶ岳



カキツバタ



ハッチョウトンボ



ニッコウキスゲと燧ヶ岳



ニッコウキスゲと至仏山



燧ヶ岳



竜宮の入り口
(竜宮：竜宮小屋近くにある伏流水のこと)

竜宮の出口

出口に居た小魚(5-6cm)



燧ヶ岳





ギョウジャニンニク



ナナカマド



池塘（ちとう）とヒツジグサ（尾瀬植物研究見本園にて）



池塘とヒツジグサ

尾瀬には、前述の「ヨッピ橋」の他に、面白い名前の付いた地名がたくさんあります。その地名の由来を調べてみました。諸説ありますがその一部を紹介します。

尾瀬

「瀬」には「川の水が浅く人が歩いて渡れる所」という意味があります。尾瀬は「生瀬」（おうせ）のことであり、浅い水湖中に草木が生えた状態である湿原を意味する「生瀬」が転じて「尾瀬」となった。

(<http://www.aa.cyberhome.ne.jp/~kazuharu/oze-name.htm>)

鳩待峠

① むかし源ノ八幡太郎義家がこの峠を越える時に、連れてきた鳩を放って旅の吉凶を占ったといわれています。

② 奥利根地方の村人たちは、冬に「きこり」や「炭焼き」のために尾瀬に入りました。やがて里に春が来て、農作業ができる季節となると峠で鳩がポーポーと鳴き始めます。村の女性たちは、この鳩が鳴き始めることで、夫や恋人たちが山から戻ってくるのを心待ちにしていました。このことから鳩を待つ(鳴く)峠→鳩待峠と呼ばれました。

(<http://www.welcome-to-oze.com/blog/?id=00000077>)

私は、②の方が好きです。

山ノ鼻

至仏山の裾が鼻のように突き出ているところから名付けられました。

(<http://www.oze.gr.jp/~oze/yurai.html>)

竜宮

尾瀬ヶ原のほぼ中央、中田代に「竜宮」と名づけられた一対の池塘があります。尾瀬ヶ原には大小無数の池塘（ちとう）があり、高層湿原尾瀬ヶ原を特徴付ける景観をなしています。塘とは「つつみ」で土手のことを意味し、池塘とは、湿原内にある池のことを指します。

無数にある池塘の中から、なぜこの1対を選び出して竜宮と呼ぶことに成ったのだろうか。竜宮入口の池塘（4m×6m程度の三角むすび型）には、流れ込む表流水（日量数 1,000m³程度）はありますが、流れ出す表流出口はありません。一方、竜宮出口の池塘（6m×10m程度の風船型）では、流れ込む流入水がないのに流れ出す流出水があります。入口と出口の池塘は直線で約80m程度離れていて、地表では何のつながりも見られません。竜宮入口の池塘に流れ込んだ水が地下のトンネルを通過して竜宮出口の池塘に湧出していると考えられています。

この地下トンネルから、浦島太郎伝説に登場する乙姫様の住む海底の極楽浄土竜宮城への入口を連想して、竜宮と名づけられたものといわれています。

(http://www.sinkyō-tisui.co.jp/e_and_w/no46/00.html)

牛首（うしくび）分岐（中田代三叉路）

「山の鼻」から湿原を歩いて、最初の本道の分岐点「牛首分岐」です。この分岐の付近に牛の首のように山が湿原にせり出している場所があり「牛首」と呼ばれています。

(<http://www.upon.co.jp/oze/spot.html>)